

2012
年度

土を考える会 総会・研修会

取材・まとめ 加藤祐子

▶ 2012年2月7-8日
(滋賀県大津市)

北陸東海近畿

生産者から経営者へ
ビジネスモデルを転換せよ！

初日は講演とディスカッションに50名余りが参加した。一人目の講師は林浩陽氏（石川県・㈱林農産）で、題目は「23世紀お笑い系百姓を目指して」。農業を通じて豊かな生活を創造するという基本理念に基づいた農業経営と、食と命の大切さを農業現場から伝える食育への取り組みについて話題が提供された。二人目の佐藤彰一氏（山形県・㈱米シスト庄内）は「ジャパニーズ海外への挑戦」と題して、輸出米ビジネスに至るまでの過程とコメ輸出の現実、乾田直播や米粉加工品への挑戦について話された。

その後、二人の講師を中心に、桂明宏氏（京都府立大学大学院・準教授）の司会でディスカッションへ。参加者に稲作経営者が多いこともあり、輸出米や加工品などの新しいビジネスに踏み切る際のヒントを求めている会場側からも質疑が飛び交い、会場内は盛り上がった。

翌8日は、野洲市の中道農園を視察。有機農業を核にした土作りや不耕起について意見を交換し、見慣れない機械や施設に興味深く学んでいた。



右上：都市近郊農業の魅力を語る林浩陽氏。左上：東北から駆けつけて熱く語る佐藤彰一氏。下：参加者の集合写真。

▶ 2012年2月9-10日
(茨城県つくば市)

関東甲信越

地域の連携・協調・共有に
ついて考えよう

初日の集合場所は関農産の圃場。冬場でも雪が少ない筑波山麓での実機実演会は天候に恵まれた。60名弱の参加者を前に、スタブルカルチを用いた高速の簡易耕や、粘土質の土壌でも付着しにくい樹脂製の20インチのプラウ耕、水田のレベラー作業前の碎土・鎮圧や畑の播種床作りに汎用できるバーチカルハロ、ドリルシードなどが実演された。同時に実際に使っているユーザーが作業体系を説明し、使い方を話した。

実演後は場所を室内に移し、染野実氏（茨城県坂東市・㈱ソメノグリーンファーム）と小笠原幸治氏から実践報告がそれぞれなされた。染野氏からは乾田直播体系と新品種「とねのめぐみ」、地域の連携で立ち上げたブランド米について紹介された。また、小笠原氏は、無代掻き移植体系と除草体系の工夫、亜硫酸ガス防止対策などの話題を提供した。

その後は、スガノ農機の設計技術者と使い勝手に関する要望や新規アイデアの提案など意見交換が行なわれ、翌10日は希望者のみで同社の工場を見学した。



上：講演・ディスカッションの様子。若い女性後継者の姿も。下：実機実演会で使われたトラクタと一緒に記念撮影。

昨年12月20日に「全国土を考える会」の総会が開催され、今年度からいよいよ全国的な活動が始まった。各地区で開催される総会・研修会に他地区から参加しやすくなり、交流が始まりつつある。気候や作業体系が違えば発想も異なる。各地域特有のテーマで繰り広げられるディスカッションは農業経営のヒントが満載である。引き続き、7～10月にかけて同様の研修会が各地区で予定されている。さらにエリアを絞った研修会も開催されている。興味のある方は編集部まで。

▶2012年2月14-15日
(北海道河東郡音更町)

北海道・十勝支部

「きたほなみ」は穫れる！

実践者に学ぶ一粒の可能性と
GPSの本流を皆で語り明かそう！

今回のテーマは22年産から本格栽培が始まった北海道の秋播き小麦「きたほなみ」。関心の高さを象徴するように130名余りが集まった。前評判に比べて収量が上がらなかったという声が多く届いている中で、作付面積24.5haの平均収量が750kg超(12・6俵)で、歩留まりも良かった武智唯浩氏(北海道池田町)の作業体系を中心に、農業コンサルタントの谷一郎氏(まいるいち農研)の解説を交えての実例検討会が展開された。白川猛史氏の進行で、日本曹達(株)の山崎克之氏、堀口泰正氏から赤かび病の防除に関する話題提供をいただいた。

2つ目のテーマは「正しいGPSの活かし方」で広田健一氏(株ニコントリプル)が講演された。ユーザーである細川幹生氏(北海道津別町)の使用事例の紹介もあり、急速に普及したGPSガイダンスの話題に参加者も熱心だった。

また、今回はFacebookを通じて参加された方も道内各地から多く集まり、盛況だった。



上：大盛況の講演会の様子。右下：昨年、収量・歩留まり良好だった武智唯浩氏。左下：農業コンサルタントの谷一郎氏。

▶2012年2月18-19日
(佐賀県神埼市)

九州沖縄

TPPに惑わされない、我が家の
品質と付加価値について考えよう

初日は約40名が集まり、染野実氏(茨城県・ソメノグリーンファーム)による茨城県での乾田直播やブランド作りの実践報告から始まった。続いて、農業ジャーナリストの青山浩子氏による「貿易自由化のもとでの韓国農業 FTA締結の影響と国内対策」について情報を提供いただいた。韓国内ではすでに米韓FTAへの賛否の論議から、これから締結される中韓FTAについての関心事に移っているという動向が伝えられた。染野氏に加えて本田和寛氏(熊本県、古野隆太郎氏(福岡県)、手島健次郎氏(佐賀県)が登場し、青山氏がコーディネータとなりディスカッションへ。参加者の中でも特に女性陣から、積極的な声が上がった。

翌19日は鳥栖市へ移動し、手島健次郎氏と松隈利生氏の圃場を視察した。販売・資材購入などを一緒にグループで手がけ、集落営農組織を取り込みながら面積を拡大している。訪れた日はジャガイモの植え付け作業の真っ最中であった。



右上：韓国農業の動向を語る青山浩子氏。左上：茨城弁で雄弁に語る染野実氏。下：集合写真。夫婦での参加も多く、にぎやかだった。